

2021年度
入学試験問題
(B 日程)

国 語

注 意

- 1 「開始」の合図があるまで開いてはいけません。
- 2 「開始」の合図で、1/5から5/5まで問題が印刷されていることを確かめなさい。
- 3 解答用紙に受験番号を書きなさい。名前を書いてはいけません。
- 4 答えはすべて解答用紙の指定された解答らん^{らん}に書きなさい。問題用紙に書いても得点になりません。
- 5 解答用紙はこの表紙の裏にあります。
- 6 「終了」^{しゅうりょう}の合図で、すぐに筆記用具を置きなさい。
- 7 問題および解答用紙は机の上に置き、持ち帰ってはいけません。

「次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。」

どうしても母親がそんなにインターネットに夢中になるのか、ゆきにはわからない。ゆきもスマートフォンを持っているし、学校の授業では電子黒板とタブレット端末たんぽを使っていたりするけれど、特に用事がないときには見たいとは思わなかった。

インターネットのなにがそんなにもしろいのだろうか？

友達とは毎日のように学校で会って話ができるから、わざわざSNS*でやりとりをしたり、メールを書いたりする必要はない。ネットゲームもやってみただけれど、すぐに飽あきてしまった。

インターネット上に自分の場所を持って、日記を書いたり写真しやうしんを載のせたりすることにも、まったく興味が持てなかった。

①「ねえ、ママ。なに、見ているの？」

パソコンの画面を見つめたままの母親に、ゆきは問いかける。

「質問に答えてあげているのよ。人生、だれかに②を押おしてほしいときっていうのがあるでしょう。ボランティアみたいなものよね。だれかの役に立つと、うれしいじゃない？」

そんなことを言いながら、母親はキーボードを叩たたいて、文章を打っていく。

母親がパソコンを使っているそばで、ゆきは宿題をする。

「そろそろ冷蔵庫も買い替えの時期だから、そっちも調べておかないと……」

なにかを買うとき、母親は必ず、レビュー*を読んだり、購入者こうにゆうしやのブログを探したりして、インターネットでの評判を調べるようにしている。冷蔵庫なんて、どれでもいいじゃん、とゆきは思ってしまう。

インターネットのむこう側にいる人間のことも、どうでもいい……。

それなのに、母親がずっと画面を見ているから、ゆきは少しだけおもしろくない気分になる。

(中略)

誕生日だからといって、なにかが劇的に変わるわけではない。

毎日、毎時間、毎分、毎秒、少しずつ、成長をしている。

いつもより豪華な夕食のあと、母親は生クリームせいくりーむの苺いちじでデコレーションした手作りケーキを出してくれた。

父親はビデオカメラを持って、ゆきがろうそくの火を消すのを撮影さつえいしている。

「ゆきちゃん、誕生日おめでとう！」

父親と母親が、声をそろえて、お祝いを言って、拍手はくしゅをする。

「はい、プレゼントだよ」

包装紙に包まれた箱を渡わたしたあと、母親はゆきがプレゼントを目にしてよろこぶ一瞬いっしゆんを撮影すべく、スマートフォンをかまえた。

ゆきはプレゼントの包装紙を破やぶって、箱を開ける。

入っていたのは、地球儀ちゆうきぎだった。

海の部分が鮮あざやかなコバルトブルーの地球儀は、知的なアイテム*で、グローバルな感じがして、いかにも母親が選びそうだ。

「インテリアとしてもオシャレでしょう？ 地理を覚えるのに役立つから、絶対にいいと思ったのよ」

母親が持っているスマートフォンが、かしやりとシャッター音を立てる。

「ありがとう」

③自分でも思いがけないほど、感情のこもっていない声が出た。

「あれー？ あんまり、うれしくなかった？」

④「そういうわけじゃないけど……」

「なら、もっと、うれしそうに笑って笑って」

スマートフォンのカメラをむけたまま、母親は言う。

だが、ゆきは笑えなかった。

母親は、最愛のひとり娘むすめがプレゼントを持って楽しそうに笑っている誕生日の写真を、インターネット上にアップ*したいと思っているのだろう。けれども、ゆきはちっとも、楽しくなかない。

腕うでのなかに、地球儀の⑤を感じる。

⑤「どうして、そんな顔してるの？」

母親はスマートフォンをかまえるのをやめて、ゆきにたずねた。

ゆきは、母親のことが好きだ。

だから、ずっと、言えなかった。

悲しませるようなことを言うのは、つらい。

でも、今日は誕生日だ。

自分に正直になっても、許されるだろう。

「いやなの」

ちよっとだけがまんしていれば、だれも傷つかず、まるくおさまることだった。

でも、心の声に、嘘うそはつけない。

「なにが？」

「ママが、私の写真をインターネットにアップするのが」

ゆきが言うと、母親は驚いたように目を見開いた。

「えっ？ どうして？」

「いやなもの、いやなの。お菓子が好きなひとばかりじゃなくて、甘いものが苦手なひとだっているでしょう？ たぶん、おなじようなもの。ママはインターネットでいろんなひととつながるのが好きかもしれないけれど、私はいやなの。気持ち悪いの。やめてほしいの」

一気に言っつて、ゆきはうつむく。

自分が生まれる前から、ずっとつづいている母親の日記。

そこでは、自分の誕生日が、ゆき自身が生まれた日ではなく、両親にとつて念願のひとり娘が生まれた日になってしまふ。

自分の人生の主人公は、自分自身なのだ。

だから、自分の気持ちをきっぱりと、母親に伝えた。

「わかった。ごめんね、ゆきの気持ちに気づかなくて」

母親がそう言ってくれたので、ゆきはふつと心が軽くなった。

「うん、子どもでもプライバシーってものがあるからな。ゆきがいやなら、やめたほうがいい」

父親も大きくうなずいて、そう言った。

「うん、こつちこそ、ごめんね、ママ」

ゆきはつぶやくと、地球儀に手でふれて、そつと回転させてみる。

地球儀はしずかに、くるくるまわつた。

(藤野恵美『おなじ世界のどこかで』)

*SNS：インターネット上のコミュニケーションサービス。 *レビュー：批評。

*グローバル：世界的な。 *アップする：インターネット上に公開すること。 *アイテム：品目。

問一 ——線部①「ねえ、ママ。なに、見てるの？」とありますが、このときのゆきの気持ちを説明したものととして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 母親がインターネットに書きこむ内容が自分に都合の悪いことではないかと、心配で見ておきたいという気持ち。

イ 母親がインターネットで見ているものの中で、自分にも役に立つような内容があれば教えてほしいという気持ち。

ウ 母親が夢中になるインターネットの内容を話題にして、大好きな母親といっしょに会話を楽しみたいという気持ち。

エ 母親がなぜそこまでインターネットに関心があるのか理解できず、もつと自分を気にかけてほしいという気持ち。

問二 ② に適当なことを書き入れ、慣用句を完成させなさい。

問三 ——線部③「自分でも思いがけないほど、感情のこもっていない声が出た」とありますが、ゆきがこのような反応をしたのはなぜですか。その理由を説明したものととして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 期待していたようなプレゼントではなくがっかりしたから。

イ はしやぐ両親を見て自分の気持ちを出すのがはずかしくなったから。

ウ 祝ってくれる母親に対して心にひっかかっていることがあるから。

エ このあと母親を悲しませるようなことを言うのがつらいから。

問四 ——線部④「なら、もつと、うれしそうに笑って笑って」とありますが、この発言に対してゆきはどのように感じていますか。それを説明したものととして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 誕生日祝いに喜ぶ娘の姿をインターネットにアップするために、笑顔を要求していると感じている。

イ プレゼントを少しも喜んでいない自分を見た母親が、どうしようかとあせっているように感じている。

ウ 誕生日はうれしいもの、写真では笑うものと考える母親に、自分の気持ちが無視されていると感じている。

エ 自分がプレゼントを気に入っていないと母親は知りつつも、気づいていないふりをしていると感じている。

問五 ⑤ にあてはまる最も適当なことを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア ひんやりとした感触 イ どっしりとした高級感 ウ りんとした知性 エ ざっしりとした重さ

問六 ——線部⑥「母親は驚いたように目を見開いた」とありますが、母親が驚いたのはなぜですか。その理由を説明したものととして最も適当なもの次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 写真を撮る楽しさを娘に伝えようとしていたが、その気持ちが伝わっていなかったから。

イ 娘のためにと思っつてやっていたのだが、実は自分のためだったということに気がついたから。

ウ すなおでいい子だと思っつていた娘が、自分の行動をすべて否定するような言葉をぶつてきたから。

エ 娘をいとしく思っつてやっていたことなのに、本当はいやがっていることを知ったから。

問七 ——線部⑦「自分の誕生日が、ゆき自身が生まれた日ではなく、両親にとつて念願のひとり娘が生まれた日になってしまふ」とありますが、ここからうかがえるゆきの気持ちを説明したものととして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 自分の人生が両親の喜びのために存在していることを、なんとかして受け入れようという気持ち。

イ 自分の人生を、両親が思ひえがいた通りに動かそうとしていることにとまどう気持ち。

ウ 自分の人生の始まりの日なのに、両親の人生の中での一場面になっつていることをたえがたく思っつ気持ち。

エ 自分の人生の始まりの日を両親だけが喜び、自分は喜べないことをさびしく思っつ気持ち。

問八 — 線部⑧「地球儀はしずかに、くるくるまわった」とありますが、この地球儀の様子はゆきのどのような気持ちを表していると考えられますか。五十字以内で答えなさい。()、()。「」は字数に数えます。

問九 本文の(中略)部分に入る次の文章Xについて、A、B、Cの三人が話し合っています。あとの(1)・(2)に答えなさい。

X 人類が誕生したばかりの時代。

インターネットなんてものがなかった世界。テレビもなかった時代、車もなかった時代、電気もなかった時代……。家族だけで身を寄せ合って洞窟で暮らす生活。自由に動けるのは、太陽が出ているときだけ。

木の実を集めたり、狩りをしたりして、毎日過ごす。

甘く熟した果物や肉が手に入ったときは、どれほどうれしいことだろう。

ずっとずっとずっと大昔の生活について考えていると、ゆきはなぜか、心が落ちつくのだった。

もし、本当にそんな環境で暮らさなければならなくなったら、あまりに過酷で、とても生きてはいかれないとは思うのだが……。

ゆきが知らない本物の夜の暗さ。

けれども、あるとき、だれかが、火を手に入れた。

人類にとって、最初の火。

そして、人類は火をあやつるようになり、さまざまなものを作り出した。

発明が、世界を変えていく。

羅針盤のおかげで広い海をどこまでも旅することができるようになり、活版印刷によって本をたくさん作ることができるようになったのだと、ゆきは教わったことがあった。

気が遠くなりそうなほどの年月をかけて、人類は進歩してきた。

いまという時代に生まれたことが、幸せなのかどうか、ゆきにはわからない。

世界中のありとあらゆる場所の情報を、家にいたまま、瞬時に手に入れることができる。

そんな環境にいながら、ゆきは洞窟で暮らす大昔の生活にあこがれている。

A 最後の部分に、「ゆきは洞窟で暮らす大昔の生活にあこがれている」とあるけれど、どうしてゆきは大昔の生活にあこがれているのかな。

B 自由に動ける時間は限られているし、テレビやインターネットもなくて不便だから、今の暮らしの方がぼくはいいな。

C 何もなかったからこそ、当時の人々はお互いの顔を見て直接会話を交わし、その中で必要な1を手に入れたんだよね。

B 今はインターネットで1が手に入るけれど、ゆきはそんな顔の見えない作られた世界はいやだったのか……。だから母親にあのような態度をとったんだね。

A そうか、ゆきは大昔のように2生活や3生活を送りたいと思っているんだね。

(1) 1にあてはまることを文章Xから探し、二字で書きぬきなさい。

(2) 2・3にあてはまることを次のア〜カからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。(解答の順序は問いません。)

ア 何も言わなくても気持ちが通じあえる

ウ 人ではなく自然とたくさんふれあう

オ 果物や肉が、日々新鮮な状態で手に入る

イ 苦労をしても生きている実感のある

エ 人々が協力しあって、争いが無い

カ 日々、家族のぬくもりを肌で感じられる

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

レオナルド・ダ・ヴィンチという人がいる。皆さんの誰もが知っているあのモナリザの作者である。画家でもあり、彫刻家でもあり、また詩人でもあり、思想家でもあり、あるいは科学者でもあった。僕がこのレオナルド・ダ・ヴィンチの名を知ったのは今から七十年前程前で太平洋戦争が終わったばかりの小学校二年生の時だった。

ある時先生が黒板にレオナルド・ダ・ヴィンチと大きく書き、こんな話をして下さった。ダ・ヴィンチという人は、僕たちの未来についていろいろなことを語っている。近未来の社会をいろいろと思いついて描いている。その中で、ダ・ヴィンチは「人間がA地点からB地点に移動するための乗り物は馬が一番良い」と言ったという。Aダ・ヴィンチの時代には、多くの人は歩いて旅をすることしかできなかった。馬の背に乗って荒野や砂漠を進んでいくというのは大変なスピードだったろうと想像できる。

B、ダ・ヴィンチともあろう人が車社会や空飛ぶ飛行機を考えなかったはずがない。でもなぜか、ダ・ヴィンチは馬が一番と言う。「さすがのダ・ヴィンチも昔の人だなあ、やっぱり人間はその時代から逃れることができないんだなあ」と小学生の僕は思った。ところが心のどこかに残ったダ・ヴィンチの一言がある。「なぜならばそれが人間にとって一番幸せなスピードであるからだ」。その一言がずっと僕の記憶の中に残っていた。

それから十年、二十年経って僕は大人になった。今の時代はどこへ行くにしても、車や電車、飛行機を使う。便利で快適になり、スピードアップした。時間の無駄遣いもなくなり、効率の良い時代になった。でも、その時いつも僕は思う。僕たちは人間にとって一番幸せなスピードで過ごしているのだろうか。ダ・ヴィンチは馬のスピードが一番幸せだと言った。だとしたら、僕たちは不幸な暮らしをしているのではないか。そう考えてみると、たしかにそういう部分がある。僕は自分を不幸にしないために、飛行機に乗って時間を節約した分をいかに豊かに使うかということを考える。

C、映画を作るには撮影後にフィルムを編集する。その作業は一ヶ月も二ヶ月も、映画によっては半年も一年もかかる。フィルムをワンカットずつ、カッターで切って、それを削り、糊をつけて貼りあわせていく。失敗したら、それを剥がしてまた貼りあわせていく。その後、少しだけ便利になって、テープスプライサーというもので接着をするようになったので、時間がだいぶ節約できるようになった。とはいえ、やはりこれも手仕事である。

それが現代ではコンピュータの時代である。コンピュータ制御の機械の中にフィルムを放り込むと、映像という情報になり、ボタンをボンと押すだけで、カットがながっていく。失敗したら、またボンと押し直すだけでよい。だからかつての時代の三分の一ほどの時間で仕事が進むようになった。それはとても素晴らしいことである。文明の利器のおかげとはこういうことだ。

けれども三分の一の時間で済むようになったのだから、残りの三分の二の時間は自分の好きな本を読んだり、音楽を聴いたり、絵を描いたり、あるいは親しい友達と会ったり、旅をしたり、そのような豊かな幸福な時間に使えるのなら素晴らしいのだが、なかなかそうはいかない。僕の友達の編集マンは、編集が三分の一の時間で済むようになったために、仕事が三倍に増えてしまったという。仕事が三倍に増えるということ自体は、商品を作るという面からは良いことなのかもしれない。つまり経済効率が良いということだ。でも、そのために人間の体も三倍消費されていく。体も心も疲れて幸福を失っていく。人間がロボットに、更にいえば科学の奴隷になっていくわけである。これではせつかく人々に夢を語る映画を作るといふ仕事が、逆に人間を不幸にする仕事になってしまう。

ダ・ヴィンチが言った幸福というものについてそこから考えることができる。かつて人は馬に乗って旅をした。たしかに時間はかかる。不便も多い。けれども、その旅の中で、人と出会って話をしたり、いろんな場所でいろんな食べ物を食べたり、あるいは日が照ったり、雨に降られたり、暗い夜があったり、星の輝きを見たり、風に吹かれたり、そういういろいろなことが旅をする人の人生の中に、心の中にどれだけ豊かな幸福感をもたらしてくれたらるかということを感じ起さなければならぬ。ダ・ヴィンチの言葉は現代にこそ意味を持つのだと僕は今思う。ダ・ヴィンチは彼にとつての遙かな未来である今のこの時代を思いやっていたのではないか。未来とは地球の明日を生きる人たちの時代であるということ考えるとすれば、芸術の力は未来の人間の幸福を予測する力、そしてそれを予測したがゆえに、どんどん便利快適ということに流されていく、僕たちの暮らしを制御する、そういう力にもなる。そこに芸術というものの素晴らしさがあるのではないかと思う。

(中略)

日本という国は古来、スクラップ・アンド・ビルドではなく、メンテナンスタという思想に支えられていたはずである。メンテナンスタとは維持である。修理・修復である。町にある、かばん屋さん、靴屋さん、傘屋さん、畳屋さん。古くなったものは、修理・修繕して維持していく。

人間関係も維持であった。人間というのは傷つきあうものである。百人の人間がいれば、百通りの考え方があるのだから、語りあえば必ず傷つきあう。でも人間の素晴らしさは考えることである。お互いの考え方、生まれや育ちが違うから、傷つきあったけれども、願いや思いは同じじゃないかということ語りあって、理解しあい、許しあうという力が人間からは生まれてくる。何度も考えを重ねて、自分とこんなにも考えの違う人間と一緒に暮らすことが、お互いの得になり、支えあつて助けあつて、豊かになりあう。「よかったね、一緒に住めて」という喜びが愛なのである。傷つきあつて許しあつて、愛を覚えるということがメンテナンスタなのである。今の世の中では、傷つきあうのが嫌だから、引きこもり、閉じこもる。更には捨てたり殺したりする。そうすると、許しあうという中から生まれる、考える力、理解しあう力、寄り添う力、思いやる力、助けあう力、全てを失ってしまう。そして愛というご褒美をもらうことができない。

どんなに便利で快適でも、今は愛がない時代である。これは人間の不幸である。人は愛によって幸福になる。だから愛を生むための許しあうという力が必要である。許しあうということには、我慢や不便がいっぱいある。そこに文化の尊さがあった。

残念ながら日本という国は、戦争が終わつてもなお、平和という名をかりた経済戦争をしてきた。今の若い人たちが、そのお父さんお母さんは、実は戦時下の犠牲者だったのである。二十世紀でその戦争は終わった。余計な高度経済成長も文明化も、もういい。多少の不便はあつても、時間がかかっても、痛みがあつても、幸福な方がいいと、ようやく願うような時代になった。二十一世紀は、文化の力を、そして文化を支える力を信じ、育て、大切にしていく時代ではないか。

⑦ 思えば二十世紀において、人間は飛び過ぎた鳥ではなかったか。人間は空を飛ぶことができない。しかし鳥をまね、鳥を越えて空を飛ぶことができるようになり、月にまで行った。でも、鳥は飛ぶだけでは滅びてしまう。鳥が種の保存を果たす本当の力とは、飛ぶだけではなく、羽を休める力を持つていることである。

渡り鳥は、太平洋の荒波の中でも、スイスの雪の大渓谷の中でも上手に羽を休める。羽を休めている時、鳥たちの本能はきつとこんなことを感じているだろう。ここまで飛ぶ力を与えてくれた先祖たちへの感謝を、一人では飛べないから一緒に飛んできた仲間たちへの絆を。それを確かめた上で初めて、未来を作る、明日に向かって再び飛ぶ力が生まれるのではないか。

人間はそのことを考えられる力を持っている。鳥たちの本能を言葉にする力を持っている。そうだとすれば、人間はここでこそ飛び過ぎた二十世紀を反省し、羽を休め、ここにくるまでの人類の英知と文化に感謝し、共に暮らしている今の時代の仲間たちと許しあつて絆を深めれば、新しい未来に向かって飛び立つていくことができると思う。

そういう意味で今僕たちは、上手に羽を休めるしかない。思えば芸術・美術とは欲望を抑制する力であり、飛びたい、遠くに飛びたいという欲望を抑制し、羽を休めることによつて、更に遠くに飛ぶ力を蓄積していくものである。

消費の時代はもう終わった。消費経済、消費文化、消費の愛、消費の友情、すべて消費することで高く高く進んできた時代。これからは消費ではなく、蓄積の時代である。時間はかかっても、効率は悪くても、高くはなくとも、深く深く蓄積をしていく力。経済も友情も愛も、考えを重ねることで積み重なっていく。

それを求めることが、新しい形の未来を作ることだと思ふ。そこにこそ、芸術・美術の意味と価値を見出し、レオナルド・ダ・ヴィンチに皆がなつて、馬の背に揺られ、馬のスピードで僕たちの未来の幸福を考える時代ではないかと思う。

(大林宣彦『いまを生きるための教室 今ここにいるとどうして』所収「芸術」)

*スクラップ・アンド・ビルド…古いものを破壊し、新しいものを生産すること。

問一

問二

問三

問四

問五

問六

問七

問九 (1)

(2)

3

問一 A

B

C

問二

問三

I

II

III

問四

問五

					芸術は

から。

問七

問八 I

II

問九

問十

1 コムギコ	6 チョウコウ
2 キキユウ	7 インガ
3 セイカン	8 ブツゾウ
4 ブレイ	9 キテキ
5 ショウタイ	10 トホ

受験番号
得点

問一 エ
問二 背中
問三 ウ
問四 ア
問五 エ

問六 エ
問七 ウ

今	分	で	消	楽
ま	の	母	え	に
で	思	と	、	な
言	い	の	心	っ
え	を	わ	が	た
な	伝	だ	軽	気
か	え	か	く	持
っ	た	ま	な	ち
た	こ	り	っ	。
自	と	が	て	

問九 (1) 情報

(2) 2 イ
3 カ

問二 A ウ
B ア
C イ
問二 エ
問三 イ
問四 I 文明の利器
II 仕事
III 消費費
問五 ア

芸術は	を	快	れ	制
未	予	適	る	御
来	測	と	私	す
の	す	い	た	る
人	る	う	ち	力
間	力	こ	の	に
の	や	と	暮	な
幸	、	に	ら	る
福	便	流	し	
	利	さ	を	

から。

問七 ウ
問八 I 経済
II 文化
問九 先祖たちへの感謝
仲間たちへの絆
問十 ア

1 コムギコ	小麦粉	6 チョウコウ	兆候
2 キキユウ	希求	7 インガ	因果
3 セイカン	静観	8 ブツゾウ	仏像
4 ブレイ	無礼	9 キテキ	汽笛
5 ショウタイ	招待	10 トホ	徒歩

受験番号
得点